

# 東町界隈の 今昔探訪

文 : 安西 香  
(編集 : 畑中 祐一)



和泉東町内会

～発刊のあいさつ～



安西 香（第14代町内会長：2020/4～2022/3）  
あんざい かおる（第27組）

昭和34年（1959年）、約50世帯が存在した町内は、当時、畑、山林が多く残った、謂わば田園地帯でした。世帯数の増加とともに社会基盤が徐々に整備され、スーパー、銀行等が進出し、更に市営地下鉄、バスターミナルも出来、私達は今日常生活にこと欠かない恵まれた環境にいます。反面、便利さ故か、ややもすれば対人関係に希薄になりがちです。

この度、地域の伝説、風習、史跡等を知ることで郷土愛が育まれ、連帯感が自ずと醸成されるとの思いから連載された「東町界隈の今昔探訪」は、冊子にする折に一部加除修正したものです。

この機に、広く町会員の皆様方にご一読頂き、来し方行く末に思いを馳せるも意義あることと存じます。町会発展の一助になれば幸いです。

## 1. 和泉東町内会の生いたち

昭和34年(1959年)、台谷戸町内会から約50世帯で分離、独立しました。

当時は、山と畑がどこまでも続く、まさに田園地帯そのものでした。

それが11年後の昭和45年(1970年)には、建築ブームで一気に110戸もの新しい家が建ちました。

ただ、町の発展に道路の整備が追い付かず、風の日は砂塵に、雨の日は泥濘に悩まされ、町内会の主な行事は春・秋年2回の道普請(砂利敷き)でした。

また、名前の由来については、集落が「かまくらみち」に沿った旧和泉町の東に位置しているので、東町内会と命名したとも伝えられています。

## 2. 昭和30年代の和泉東町



昭和30年代の話題といえば、34年(1959年)4月の皇太子(現上皇)の結婚<\*1>と、39年(1964年)10月の東京オリンピック開催<\*2>ではないでしょうか。

和泉東町に土着の家は無く、昭和30年代当初は主に畑地で、米や麦、サツマイモ、ジャガイモ等の栽培で、北は富士塚のバス停<\*3>辺りから、南は下和泉方面まで一望でき、富士山もクッキリ見える農村でした。

高度経済成長とともに、町内会館附近から次第に家が建ち始め、30年代の終わりには150戸余りになりました。

<\*1> 明仁皇太子殿下と正田美智子さん(現上皇后)が4/10ご成婚、当日は、NHKと民放でテレビカメラ100台、放送要員1,000人を動員してご成婚パレードを中継

<\*2> 10/10(後の体育の日)から10/24までの15日間、東京都で開かれたオリンピック競技大会。93か国(選手5,152人)参加、20競技163種目で開催

<\*3> かまくらみち「泉署入口」交差点附近

ただ、道路の整備がされず、雨の日の外出は大変で、特にサラリーマンや学生はブーツでバス停まで行き、そこでシューズ等に履き替えるありさまでした。夜道も外灯などは無く、懐中電灯は必携品でした。

伊勢原線(現長後街道)に出ても、片側一車線の狭い砂利道で凸凹がひどく、妊婦が乗ると流産すると言われ、「流産道路」と新聞に写真入りで報じられたこともありました。



立場交差点附近(1958年ごろ)

### 3. 立場の由来

養蚕業が盛んだった明治の中期、中田の青木近右衛門が、おらが村のシルクロードと、いざ鎌倉への道が交差する角に、牛馬車を牽く旅人が休憩する場として立場<\*4>を開業し、食料雑貨なども商って<\*5>長い間人々に親しまれてきたが、時代の変転とともに立場の役割は廃れてしまった。

現在、泉区のほぼ中央に位置するこの立場は、今や本来の意味から離れてしまったが、立場という地名で定着している。

これからは、交通の要衝として、また、商業の中心地として栄え続けることだろう。[泉区小史 いずみ いまむかし より]

市営地下鉄「立場」駅の昨年度の利用者は、11,000人/日といわれ、バスは放射線状に伸び、多くの人買い物が訪れて賑わいを見せています。”立場”のある和泉東町内会はこうした環境の下、安心・安全でグリーンな街づくりを推進しています。



立場交差点(現在)

<\*4> 江戸時代、街道などで人夫が駕籠などを止めて休憩した場所を言う[広辞苑]が、ここでは、青木近右衛門が立場を開業し、馬止のために数本の杭を立てたのが語源と言われている。

<\*5> 当時はよろず屋で、食品のほか、漢方薬、雑貨、石油なども販売していたそうである。現在は、リカーショップタテバ(ヨークマート内の酒屋)として、子孫である青木籌之(かずゆき)さん(27組)が経営している。

#### 4. 近くにある名所・旧跡

当町内会が所属している和泉中央連合自治会の会館は泉中央公園内にあります。

ここは、泉小次郎親衡＜\*6＞の館跡と言われ、創建は建暦2年(1212)と伝えられています。

園内には「泉小次郎馬洗いの池」があり、池は一年中湧き水が枯れることなく、昔から旱魃が続くと、池の水を汲み干し雨乞いの願をかけてきました。

泉小次郎親衡の道場として創建したとされるのが臨済宗長福寺で、鎌倉円覚寺の末寺です。

隣接する須賀神社はその守護神として伝えられています。昔は「天王社」と称していましたが、明治に入り神仏分離令により須賀神社と改められました。

近くには長福寺の守り本尊と言われている不動尊＜\*7＞があり、館の鬼門除けとして勧請したと言われている「神明社」があります。



長福寺 ↑



← 泉小次郎馬洗いの池

＜\*6＞ 建保3年(1213)2月、泉小次郎親衡は和田義盛の子義直、義重と甥の胤長などと語らって、二代将軍源頼家の遺児千寿丸を擁して、北条義時を倒そうとしたが計画が事前に発覚し、この地から逃亡したことが吾妻鏡に載っている。

＜\*7＞ 長福寺の西方約200m先に祀られている不動尊は、泉小次郎親衡の守り本尊といわれている。不動尊の左右には「男瀧(おたき)」「女瀧(めたき)」があり、土地の人々はこの付近を「瀧の前」と呼んでいる。

## 5. 年末の行事

今回は、昭和30年代初頭(1955～)まで続いた年末の行事のいくつかをご紹介します。

◎【煤払い】 各家庭が必ず行った行事です。正月の神を迎えるために煤ほこりを払い清めるものです。

◎【火の番】 今は町内の消防団員が車で巡回し注意を喚起していますが、当時は2人1組で「火の用心！」と言って拍子木を叩いて一晩に2～3回廻っていました。

◎【冬至】 今年は21日(月)がこの日に当たります。カボチャを食べると腹を壊さない、柚子湯に入ると中風(脳卒中)にならないと言われました。

◎【餅つき】 午前3時～4時に起きて搗きますが、29日は”苦持”として敬遠され、その前に済ませました。門松も同様に29日は嫌われ、31日も”一夜飾り”として避けました。

上記は、この辺りの風習であり、地区、また家庭によって違いはありました。



↑ 東京タワー建設

## 6. 正月の行事

新年を迎えたら、まず”寒詣り”といって、近くの神社、庚申様、お稲荷等に米を持ってお詣りします。これは、必ず暗いうちに3日続けて行います。

また、元日には、お寺に年賀に行きます。その後は隣近所への挨拶廻りです。

子どもたちは、主に男の子は独楽回し、女の子は羽根突きに興じていました。

(ちなみに、凧揚げは5月5日[こどもの日]でした。)

<\*8> 昭和30年代前半(1955～1959)の主な出来事 三種の神器(白黒テレビ、冷蔵庫、洗濯機)、国際連合へ加盟、東京タワー完成、巨人軍長嶋・王デビュー、皇太子殿下(現上皇)ご成婚、新幹線こだま号運転開始、関門トンネル開通など

7日は七草粥<\*9>を作り、神様にあげ、食べる。これは万病を防ぐといわれました。

11日は鏡開きです。お供え餅を切ったお汁粉を食べます。

14日は”どんど焼き”(せいと焼き、さいと焼き、左義長<\*10>とも言う)。夕方に、門松、お飾り、書初め、古いお札等を焚きあげますが、この時、三又の木に団子3個を差して焼き、2個は他の人と交換し、残りの1個は持ち帰って食べると風邪をひかない、病気になるまいといわれました。

なお、上記は、この辺りの風習であり、地区、また家庭によって違いはありました。



## 7. 町内会館の建設

町内会が発足した当初、会館は無く、会合は会長宅はじめ各役員宅の持ち廻りで開いていました。

その後、中和田中学校東門前に「青少年の家」が出来ました<\*11>が、市の施設で利用希望者が多く、都合の良い日時の選定は困難でした。

一方、かねて町会員からは「独自の会館を作っては？」との声が強くなり、1971年(昭和46年)<\*12>、当時の体育振興会長 近藤正様(23組)が所有していた倉庫の寄贈を受け町内会館(「東町青少年会館」とし、場所は現在地を借用しました。

(写真参照)



青少年会館 (昭和46年9月)

<\*9> 春の七草(セリ・ナズナ、ゴギョウ・ハコベラ・ホトケノザ、スズナ・スズシロ、これぞ七草)[七五調で唱える]

上記は、室町時代(貞治年間:1362-1368)に、室町幕府2代目将軍の足利義詮(あしかがよしあきら)の命により成立した源氏物語の注釈書「河海抄(かかいしょう)」に記載されている。

<\*10> 左義長(さぎちょう、三稜杖)とは、小正月に行われる火祭りの行事。日本全国で広く見られる習俗である。

<\*11> 現在のヨークマート駐車場の敷地内にあった。

<\*12> 昭和46年(1971)の主な出来事 NHK総合TV全番組カラー化、『仮面ライダー』放映開始、横綱・大鵬が引退、マクドナルド日本第1号店が銀座にオープン、アポロ14号が月に着陸

これを契機に、町内会の活動は一段と活発化しました。ただ、会館は倉庫の改築で使い勝手も良くななく、また、時の経過とともに老朽化が進み、床の上にゴルフボールを置くと、転がり出す始末でした。

平成(1989年～)の時代に入り、最大の課題は会館の建て替えて、平成12年(2000年)〈\*13〉、町内の(株)齋藤工務店(社長:齋藤良樹(5組))様の施工により、敷地87坪、建坪36坪(ホール部24坪)の現在の会館が完成しました。

## 8. 三月の習わし

[ひな祭] 3月3日は女子の節句(桃の節句)として雛人形を飾り、赤、白、緑の菱餅、米麴と酒でできた白酒、桃の花などを供え祝いました。初節句の場合、多くはお嫁さんの実家から贈られる風習がありました。節句が終われば早く片付けないとお嫁に行きそびれる、あるいは遅くなると言われ、早々に片付けました。

♪「うれしいひなまつり」 〈\*14〉

作詞: サトウハチロー

作曲: 河村光陽

あかりをつけましょ ぼんぼりに  
お花をあげましょ 桃の花  
五人ばやしの 笛太鼓  
今日はたのしい ひなまつり

[彼岸] 三月の17日は彼岸の入り、20日は中日(春分の日)です。

墓参りをし、ぼた餅を供え供養します。お寺に行き、お布施を包んで挨拶に行きます。



〈\*13〉 平成12年(2000)の主な出来事 シドニーオリンピック開催(金5 銀8 銅5)、ハッピーマンデー初適用、iモードブーム(出会い・着メロ・待ち受け等)、イチローが野手として日本人初の大リーガーとなる、三宅島噴火で全島民避難

〈\*14〉 1936年(昭和11年)に発表(レコード化)された童謡で、歌詞は4番までである。当時の曲題は「嬉しい雛まつり」。ちなみに、2007年(平成19年)に日本の歌百選に選出されている。



## 9. さわやか運動の起源

さわやか運動の名の下に町内全域一斉に清掃活動が実施されたのは1980年(昭和55年)です。以来、今日まで続いています。

この地に住まいを求めた人の第一印象はまず悪路でした。年2回の砂利敷き(道普請)は日常生活を営むうえで欠かせない、重要な年中行事で、これに参加できないと”出不足料”と称して一時150円<\*15>を納める定めもありました。

一方この間、道路整備の陳情も併行して続け、1968年(昭和43年)舗装と下水道の誘致が決まり、1983~1984年(昭和58年~59年)には、北部の一部地域を除き未舗装道路はほぼ解消されました。

現在は市のグリーンアップ運動の一環として実施していますが、そもそも、さわやか運動は毎年5月の立夏が過ぎ、蚊や蠅などが湧き始める時期に、傷んだ道路にできた水溜りの補修や下水、排水溝に詰まった枯木、雑草、土砂などを取り除くものです。

昨今は、一部箇所の側溝を除き、薬剤の散布もなく、作業はすっかり軽減されました。これもグリーンな街である証です。



2019.5.12の様子(北側)

## 10. 町内会と和楽会

町内会は当地域に居住する世帯で構成し、和楽会は個人単位で入会している団体です。町内会の活動は、様々なイベント、広報、掲示板等で広く紹介している通りです。

一方、和楽会は、町内会発足後10年を経た1969年(昭和44年)の4月に結成されました。

<\*15> 昭和43年(1968)当時のおおよその物価 初任給(大卒)¥25,302、かけそば¥70、ラーメン¥75、コーヒー(喫茶店)¥80、銭湯¥32、映画館(封切)¥500 なお、当時の¥150を現在価値に換算すると、約¥540程度(消費者物価指数は当時の約3.6倍<日銀HPで調査>)

それ以前は町内会の一部門で、1995年(平成7年)社会奉仕と高齢者福祉の推進を目標に掲げて分離し、現在に至っています。

入会に際し特に資格は問いません。地域内に暮らしていれば誰でもいつでも自由に入会できます。

会員は第一線を退いた方々が主で、現在(2021年4月1日)総数101名(男58、女43)、会費は年1,200円です。

グラウンドゴルフ、健康体操など、いくつかの部会がありますが、とりわけ、2か月に1回の誕生会ではカラオケを楽しみ、健康や趣味を話題に近況を語り合う場として毎回大変な盛況です。



2019.11.10の誕生会&芋煮会の様子

## 11. 須賀神社の祭礼

かつては”和泉の天王さま”と言われ、近郷にまで広く知れ渡って、盛大に行われていました。1965年(昭和40年)頃までは曜日、天候に関係なく7月22日と決まっていた。

この近辺での夏祭りは珍しく、それは農作物の生育を祈願する神事で、真近に迫ると農家はそれまでに一区切りつけようと、田圃の草取りや陸稲、さつま芋の作業に多忙を極めました。

15日はお仮屋を建て、神輿を納め、21日の宵宮には演芸会が行われ、境内は老若男女で立錐の余地もないほどの賑わいでした。

22日の渡御(おわたり)は神主と和装で威儀を正した世話人たちが先導し、神輿は巡行途上酒による酔いも手伝った担ぎ手の勢いで、手入れの行き届いた田圃に突っ込み、青々と生育している稲を台無しにすることも度々でしたが、これも豊作(神の恵み)になると喜ばれたものでした。

この地が育んだ伝統行事、これからも郷土の誇りとして伝承されていくことを期待しています。



2019.7.14の宮入巡行の様子(長後街道沿い)

## 12. お盆の行事

お盆は正月とともに日本を代表する年中行事です。正式には盂蘭盆と云われ、祖霊を供養する行事で、略して「盆」と云われています。当地域では、大部分が新暦8月15日の月遅れに行事が営まれています。8月に入ると、お墓の掃除をし、13日昼間にご先祖様が帰ってくるようにと屋敷の入口に盛土を作り、胡瓜と茄子で牛と馬の人形を用意し、これを盛土に置き、線香をあげます。

仏壇には里芋(あるいは蓮)の葉に賽の目に切った茄子を乗せ供えます。13日には迎え火を焚き、15日には送り火を焚いて終了する<\*16>のが恒例です。

近年はこの光景は殆ど見られなくなりました。

盆踊りは、お盆の期間中にお寺や神社で踊るもので、お盆を迎える精霊を慰める踊りです。なお、近年の盆踊りは「夏祭り」として老若男女が楽しんでいきます。



## 13. 敬老の日

9月の第3月曜日は敬老の日です。

老人の日に代わって新たに敬老の日が制定されたのが1966年(昭和41年)<\*17>で、それに伴い、当東町内会では敬老会を実施しました。

<\*16> お盆の行事は各地域、各家庭でまちまちです。16日に送り火を焚くところもあるようで、どれが正しいというものはありません。

<\*17> 昭和41年(1966)の主な出来事 ビートルズ来日、人口が一億人突破、日本テレビ系の演芸番組『笑点』放送開始、全日空ボーイング727型機が東京湾に墜落し133人全員死亡、NHK朝の連続ドラマ『おはなはん』が茶の間を独占

当時、70歳以上の対象者は僅か12名でした。世帯数の増加があり単純に比較はできませんが、今年は467名(8月末現在)の方が該当し、実に約40倍にまでになりました。今後さらにこの傾向は続くと予想されます。

その敬老会も2011～2012年(平成23～24年)頃<\*18>までは毎年大勢の人が集い、歌や踊り、楽器の演奏等で盛大に開催されてきましたが、会場の確保から参加人員の把握、記念品の手配等々、事前の準備に多忙を極める一方、参加者が漸次減少傾向にあり、催しは記念品へと代わり、現在に至っています。<\*19>



## 14. 十五夜

9月21日は十五夜です。陰暦の7、8、9月を秋というので、その真ん中(陰暦8月15日)が”仲秋の名月”というわけです。別名”芋名月”とも云われています。

各家庭では、芒や女郎花とともに芋はもちろん、秋の代表的果物の柿や栗、その他を思い思いに供えます。

この日はかりは、若い人たちは他家の柿や栗などをを失敬しても大目に見られ、おとがめはありませんでした。

[参考] 十三夜

10月18日(陰暦9月13日)の夜、十五夜の月に対して「後の月」と呼び、「芋名月」に対して「豆名月」、「栗名月」と言います。[日本語大辞典より]



<\*18> 平成23～24年(2011～2012)の主な出来事 東日本大震災、原発事故で甚大被害、なでしこジャパンがサッカーW杯優勝、歴史的円高[一時1ドル=75円32銭(ちなみに、現在は108～110円台)]、東京スカイツリー開業、ロンドン五輪開会

<\*19> なお、東町内会では例年記念品をお届けしています。

♪「うさぎ」 <\*20>

童謡・唱歌

うさぎ うさぎ  
なに<sup>み</sup>てはねる  
十五<sup>じゅうご</sup>夜<sup>や</sup>お月<sup>つき</sup>さま  
見てはねる



♪「月」 <\*21>

童謡・唱歌

でた<sup>つき</sup>でた<sup>つき</sup>月<sup>つき</sup>が まるいまるい まんまるい  
盆<sup>ぼん</sup>のよう<sup>つき</sup>な月<sup>つき</sup>が  
隠<sup>かく</sup>れた<sup>くも</sup>雲<sup>くろ</sup>に 黒<sup>くろ</sup>い黒<sup>くろ</sup>い 真<sup>ま</sup>っ黒<sup>くろ</sup>い  
墨<sup>すみ</sup>のよう<sup>くも</sup>な雲<sup>くも</sup>に  
また<sup>つき</sup>でた<sup>つき</sup>月<sup>つき</sup>が まるいまるい まんまるい  
盆<sup>ぼん</sup>のよう<sup>つき</sup>な月<sup>つき</sup>が

## 15. 部会(クラブ活動)の変遷

東町内会には現在9つの部会(\*22)があります。町内会が主導して立ち上げた会と、同好の士が中心となって発足させた会とがあります。古くは、1980年(昭和55年)創立の婦人部の皆さんが関わって作り上げたのが、舞踏の”あやめ会”や”大正琴の会”です。

時を経て、2006年(平成18年)にカラオケの同好会が結成されると、これを機に次々と新しい部会が誕生しました。

その主な要因は、世帯数の増加と、比較的時間にゆとりのある高齢者の多くが趣味の多様化に拍車をかけたと思われる。

各種同好会の活動は、町会員相互の交流を促し、絆を強め、結束力、一体感を醸成する源泉となっています。

### 各部会(クラブ)活動

#### ① グラウンドゴルフ



#### ③ 健康体操



#### ④ 囲碁



#### ⑤ 麻雀



#### ⑥ パソコン



#### ⑦ 布ぞうり



#### ⑨ サロンひまわり



<\*20> 江戸時代から歌い継がれた日本古謡で、1892年(明治25年)の『小学唱歌(二)』で初めて教材として掲載された。当時は「なに」を「見てはねる」であったが、1941年(昭和16年)の『ウタノホン(下)』から、現在の歌詞になった。

<\*21> 1911年刊行の『尋常小学唱歌』に掲載された文部省唱歌。この曲と歌詞が紛らわしいのが、「月が出た出た月が出た」の歌い出しで有名な『炭坑節(たんこうぶし)』と云われている。

<\*22> ①グラウンドゴルフ、②カラオケ、③健康体操、④囲碁、⑤麻雀、⑥パソコン、⑦布ぞうり、⑧絵手紙、⑨サロンひまわり(2022年現在、コロナ禍の影響等で①③⑨以外は休止中。)

## 16. 煤払い

ガスが普及する以前、台所や風呂などで使う燃料は薪や枯木、落葉などでしたので、家の中は煤だらけでした。

年末の煤払いは、正月の神を迎えるために、煤を払い清める神事の一面もあったので、多くの家庭で行いました。家の内外の掃除には、先端の葉だけを残した長い笹竹を2～3本束ね箒にして、神棚、仏壇をはじめ、天井や梁、障子の棧、さらに手の届き難いところの埃まで払い落としていました。

箒筥や畳なども外に運び出し、特に畳は縁同士合せ立て掛け、十分に日に当て、一枚一枚丁寧に叩いたものです。

昨今の住宅は間取りが細分化され、畳部屋も少なく、気密性も高い構造で、塵も僅かで、年末の大掃除といっても日常と余り変わらないようです。



## 17. お正月行事のいろいろ

お正月は多くの行事、風俗、習慣、伝説などがあります。

初詣に始まって、お屠蘇、雑煮、お節料理、七草粥、鏡開き、せいと焼き（せいと焼き、セート焼き、どんど焼き、ドント焼き、左義長、さらにダンゴ焼き）、コマ廻し、カルタ、双六、羽根つき、鞠つき、書初め、出初式、初夢などなど。そのいくつかを紹介します。

- 初詣（お寒詣り）：三が日の朝、暗いうちに近くの神社、庚神様、お稲荷様などに米や小さく作ったお供え（餅）を持ってお詣りした。
- 七草粥：一月七日、近場で採れるのは”セリ”ぐらい。あとは、大根、ホウレン草、小蕪、小松菜などが使われ、必ずしも七草ではなく、お供え（餅）も砕き、一緒に煮込んでお粥にした。

•書初め: 神棚に吊るし、せいと焼きには注連縄やお飾りなどと一緒  
に燃やし、高く上がると上達する云われた。

•男が家事: 三が日、男は雑煮を作り、部屋の掃除、雑巾がけなどをす  
る習わしがあり、多くの家庭でみられた。



## 18. 節分

2月3日(木)は節分です。鰯の頭を柵の枝に刺して、門や玄関口に掲げ  
て、邪気を払う風習は今でも見かける風景です。豆撒きともいい、撒い  
た豆を歳の数だけ食べると云われたが、お年寄りはその数だけ食べる  
とお腹を傷めるからと、一粒を10歳に換算して食べたとか…。

今年は皆で「福は内、鬼(コロナ)は外」と唱えて、ウィルスを追い払い、  
無病息災を願いたいものです。

## 19. 和泉川沿いの名所旧跡を訪ねる

東町内会の近くを流れる和泉川は、相鉄線いずみ中央駅から川沿い  
に下ると、いくつかの史跡、寺院、神社、文化財等を見ることができま  
す。

まず、駅周辺には地蔵原の水辺、滝の前不動尊、蚕霊供養塔などあり  
、南へ向かえば、泉小次郎親衡伝承地の泉中央公園や長福寺があり  
ます。

さらに下ると、中之宮左馬神社、宝心寺、四ツ谷の石仏、天王森公園等  
があります。

◎泉中央公園: 鎌倉時代の武将泉小次郎親衡の館跡と伝えられ、園  
内に馬洗いの池がある。

◎長福寺: 泉小次郎が道場として創建したと云われる。境内には馬  
洗いの池の畔から出土した板碑がある。

◎須賀神社: 泉小次郎が鎮守神として祀った神社と云われる。

◎中之宮左馬神社: 和泉川沿いに見られるサバ神社の一つ。

◎<sup>しもいずみ</sup>下<sup>さばじんじゃ</sup>和<sup>いずみがわ</sup>泉<sup>ぞ</sup>鯖<sup>み</sup>神社<sup>じんじゃ</sup>：これも和泉川沿いに見られるサバ神社の一つ。和泉川、境川周辺には12のサバ神社(左馬、左婆、佐波、鯖)が存在します。

◎<sup>てんのう</sup>天王<sup>もり</sup>森<sup>こうえん</sup>公園<sup>えんない</sup>：園内にある天王森会館は旧清水製糸場本館で、明治<sup>てんのう</sup>期<sup>もり</sup>に建てられた市内に残る唯一の製糸関連の遺構です。(泉区散策ガイド「水と緑と歴史の散歩道」他より)

他にも史跡、寺院がいくつかありますので、皆さん、一度訪ねてみては如何でしょうか。



## 20. <sup>さいご</sup>最後に

なお、「<sup>ひがし</sup>東<sup>ちょう</sup>町<sup>かいわい</sup>界<sup>こんじゃく</sup>限<sup>たんぼう</sup>の<sup>しゅうりょう</sup>今昔探訪」はこれにて終了します。

<sup>えん</sup>縁<sup>ち</sup>あってこの地<sup>つい</sup>を<sup>すみか</sup>終<sup>き</sup>の住<sup>わたし</sup>処<sup>なに</sup>と決<sup>じもと</sup>めた私<sup>し</sup>たち、何<sup>だいじ</sup>よりも地<sup>えん</sup>元<sup>し</sup>を知<sup>し</sup>ることが大事<sup>だいじ</sup>です。

<sup>きんべん</sup>近<sup>めいしょ</sup>辺<sup>きゅうせき</sup>の名<sup>たず</sup>所<sup>ゆらい</sup>旧<sup>まな</sup>跡<sup>ぎょうじ</sup>を訪<sup>しゅうかん</sup>ね、その由<sup>でんせつ</sup>来<sup>とう</sup>を学<sup>まな</sup>び、また、行<sup>ぎょうじ</sup>事<sup>しゅうかん</sup>、習<sup>でんせつ</sup>慣<sup>とう</sup>、伝<sup>まな</sup>説<sup>ぎょうじ</sup>等<sup>しゅうかん</sup>の<sup>でんせつ</sup>歴<sup>とう</sup>史<sup>まな</sup>を知<sup>まな</sup>るこ<sup>ぎょうじ</sup>と<sup>しゅうかん</sup>で<sup>でんせつ</sup>自<sup>とう</sup>ず<sup>まな</sup>と地<sup>まな</sup>域<sup>ぎょうじ</sup>と<sup>しゅうかん</sup>の<sup>でんせつ</sup>繋<sup>とう</sup>が<sup>まな</sup>り<sup>ぎょうじ</sup>が<sup>しゅうかん</sup>強<sup>でんせつ</sup>固<sup>とう</sup>にな<sup>まな</sup>り、郷<sup>まな</sup>土<sup>ぎょうじ</sup>愛<sup>しゅうかん</sup>が<sup>でんせつ</sup>育<sup>とう</sup>ま<sup>まな</sup>れ<sup>ぎょうじ</sup>ます。これ<sup>しゅうかん</sup>を<sup>でんせつ</sup>契<sup>とう</sup>機<sup>まな</sup>に<sup>ぎょうじ</sup>さ<sup>しゅうかん</sup>ら<sup>でんせつ</sup>に<sup>とう</sup>深<sup>まな</sup>い<sup>ぎょうじ</sup>絆<sup>しゅうかん</sup>で<sup>でんせつ</sup>結<sup>とう</sup>ば<sup>まな</sup>れた<sup>ぎょうじ</sup>和<sup>しゅうかん</sup>泉<sup>でんせつ</sup>東<sup>とう</sup>町<sup>まな</sup>内<sup>ぎょうじ</sup>会<sup>しゅうかん</sup>に<sup>でんせつ</sup>と<sup>とう</sup>願<sup>まな</sup>い、<sup>ぎょうじ</sup>綴<sup>しゅうかん</sup>った<sup>でんせつ</sup>次<sup>とう</sup>第<sup>まな</sup>です。

おわり



## ～編集後記～



畑中 祐一（第15代町内会長：2022/4～）  
はたなか ゆういち（第38組）

本冊子は、組長会議レジュメの付録として添付している「東町内会だより」に19回（2020年7月～2022年2月）に渡り連載したコラムを再編集したものです。

執筆者である安西香氏は、この地に居住されて長く、和泉東町内会の役員としても永年ご活躍されて来られました。

その氏により、コロナ禍という未曾有の状況の中で、和泉東町内会長職を務める傍ら、泉区、立場、和泉東町内会周辺の史跡や、町内会の昔の風習や行事についての回顧を中心にエッセイ風に執筆していただきました。

私は、氏の執筆した原稿を極力原文のまま生かすことに注力するとともに、可能な範囲で時代背景や解説を追記することで皆さんの理解がより深まるよう編集しました。

なお、氏によると、語り足りない出来事やエピソードがまだまだ沢山あるとのことでしたので、またの機会に第2弾の執筆をお願いしたいと思っております。  
乞うご期待ください！

「東町界隈の今昔探訪」

発行 和泉東町内会

会館 泉区和泉中央南 2-11-23  
電話 045-801-9234

発行責任者 畑中 祐一

発行日 2023年1月8日

